

第70回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日 時：平成26年10月24日（金） 14:00～16:30

場 所：奈良県文化会館 2F 集会室 A・B

出席者：（委員）伊東委員、岩本委員、立川委員、舘野委員、谷委員、藤次委員、中川委員（委員長）、
前迫委員、三野委員（9名）
（欠席 朝廣委員、岡田委員 2名）（五十音順）
（事務局）河川課長 ほか9名

議事：（1）進捗点検（大和川水系布留飛鳥圏域）について
（2）夏季環境モニタリング調査について（中間報告）

1. 進捗点検（大和川水系布留飛鳥圏域）について

立川委員）用地買収が困難な河川があるが、どうしようもないものは事業が止まってしまう。河川改修が進められない場合と水位計やライブカメラの設置の進め方の考え方は。

事務局）用地取得が難航して事業が止まっている場合は、代替案を設定して委員会に諮り、計画の見直しを行うことが必要かなと思っている。水位計等に関しては、昨年の水害を契機に、市町村より要望がある危険箇所や、設置が少ない箇所等を中心に整備を進めていく所存である。

前迫委員）進捗点検は5年サイクルで実施とのこと、整備率50～60%とのことだが、整備率が低くとも、10年の計画では遅れている訳ではないとか、整備率は高いが、本当はもう完了してなければならぬとか、シートで読み取れるようにしてほしい。

事務局）20年で河川整備計画を予定しているが、5年ごとの目標は記載していないので、分かりにくい。事業再評価では、今後5年間の目標を立てる。今回は示していないが次回の再評価のご報告で示したい。

中川委員長）何故進んでいないか、実情が見えれば良いが、どのレベル迄進んだのか？予定通りなのか？目処がついたのか？が判断できると良い。

事務局）ご指摘のとおりである。大きい問題はなかなか進捗しないので、5年間くらいの目標をたてる。

三野委員）PDCAを回すのが大きな目的。5年ごとに見直す「P」を明確にしないと点検評価ができない。次の5年間の目標を見直す考えで良いか。まとめたものがこれで、それに意見を求めて、それから5年後の目標を立てる流れで良いか。事業再評価との位置づけが今ひとつ理解しにくい。

中川委員長）事業の用途が立たない場合は、変更の必要性を諮るのが再評価である。

事務局）大きな変更が必要なら、国と協議の上、この委員会に諮る。

三野委員）効果と目標の見直しが示されてPDCAが回っていると言える。効果が出ないのであれば、そのやり方をチェックし、改善計画を立てるのではないか。

中川委員長）今は事業が1kmしか進まなかったが、残りを5年のタイムスパンでどうしたかをチェックする。

三野委員）植生の復元を図ろうとしたがダメだったから、こういう風に改善しましょうとか、PDCAサイクルを回すため、計画の改善についての意見を求められているのではないのか。

中川委員長）環境整備で効果が上がらなければ意見を付せば良い。

藤次委員）工事に対して地権者等の利害関係者の反対は理由として理解できるが、新川で受益者であるはずの地元の協力が得られないという理由は。

桜井土木）用地が買えないのが大きい。団地が一段高い位置にあり、住民にとって浸水は危機的状況ではない。地元で騒音や振動などを懸念して反対されている方がいる。

中川委員長) 京都でも同様なことがあったが、水害を契機に協力的になった。なぜ反対されていたかという点、工事中のプライバシーが守られないという点や騒音の問題等であった。地元が田んぼなら水害になっても良いと考えられているのであれば、なかなか難しい。住居地域と一律に治水安全度、というわけにもいかないであろう。

三野委員) 行政から求めるものは何、整備について事業者から案がないことには中々意見の出しようがない。代案とかあると議論になるのだが。「事業が止まっている」ではPDCAにならない。

中川委員長) 多方面からいろんな知恵を頂ければ良い。「ここの川ではこういう風にした」の紹介でも良い。

立川委員) 治水事業が進まない分、防災対策とリンクしてやろうとしているのか？何かアイデアがあるのかと思ひ、最初に質問した。

中川委員長) 最後に「できませんでした」とならないように、私どもも意見を出さなければいけない。事務局) 今回は進捗点検のご報告だが、次回の再評価では「こうしたい」を出したい。

前迫委員) 住民全体の反対と一人だけの反対のケースを分けているので、合意形成のいろんな手段を講じていると思うが、今回はこうだという報告を聞いておけと言うことか。この資料で判断を求められても難しい。例えば、植生が繁茂したとあるが、外来種植生なら意味が無い。

事務局) ご意見を頂いて改善できるところは改善していきたい。

中川委員長) 河川改修をした所でも、自然環境が戻っていないとか、こんな護岸にした方がいいといった意見があってもいい。改善するのに手戻りが大きい等、言いにくいこともあると思うが、言えば良い。

三野委員) P15の「堰高が高くなるから合意が得られず」というのはどういうことなのか。

桜井土木) 現状では堰高が50cm程度であるが、改修により2mくらい河床を下げると、 $2m + 0.5m = 2.5m$ の高さで水をためるには時間がかかるのでもう少し工夫できないかと言われていた。可動堰になる予定だが、利水者と調整中である。

中川委員長) 因果関係を記して欲しい。後々わかるように。

館野委員) P2の現況写真の左右岸の植生繁茂状況の違いは何が原因か。

事務局) 施工時期が異なるので、草の生え方が違う。

館野委員) 右岸の状況になるのにどのくらいの時間がかかったのか。

事務局) 4年くらいかかった。

岩本委員) 「一定規模のため池が限定的であり」(P31)の意味がわからない。数字の意味を教えてください。

市町村単位のばらつきは何故。0%の市町村があるのは、計画の意味がないのでは？

事務局) 昭和57年の大水害から、河川改修だけでなくため池も利用しようとした施策である。奈良県では70万 m^3 、市町村で30万 m^3 を目標とした。奈良県は100%以上であるが、市町村が中々進まないのは、財源的な点が多い。0%のところは、ため池治水をやるにも適地がないということ。その代わりとして、水田貯留等を進めている。また、上流の市町村では浸水が起きていないということで、あまり考えていないのが実情。

岩本委員) 基本計画の変更の必要性があるのではないか。

事務局) 元々は、ため池とグラウンド等の雨水貯留施設で、別々に目標設定をしていたが、今後は総和で目標を決めたいと思っている。

中川委員長) 流域対応で何 m^3/s 位は出ているのでしょうか。

前迫委員) 環境のシートに関しては、写真ではわからないので生データ(リスト)は当然、グラフ、コメント1~2行、生物的現象のコメントが必要。P36は情報を出さないのは人災だと思う。御嶽山の例もそう。アラームメールの登録者数が5,000人と低いが、自動的に一般市民がわかるような情報提供の努力について考えを示されたい。

事務局) ホームページに情報掲示し、アラームメールには雨量・河川水位が情報として含まれている。水防警報が出る場合も、自動的に配信できる。また、県でイベント等を行うたびに、アラームメールへの登録は呼びかけている。

前迫委員) 何%の人口に情報が行き渡っているのか。

事務局) わかっていない。大和川流域に人口の8割が集中している。生産世代としては30万人位が分母であろうか。今後考えたい。

中川委員長) 環境のデータについては?

事務局) 環境面に関しては、事務局は手探りでまとめていってる。今後もお考え、ご意見を得ながら進めたい。水位計、ライブカメラは県で設置を進める方針である。リアルタイムでカメラを見られるようにしたい。

三野委員) P39の水質はH21-22にかけて劇的に良くなっている。一方、H22-24にかけて減少傾向の理由は。

事務局) 雨量とかもあるのかと思うので、次回で考察したい。

岩本委員) P37で防災訓練が雨天中止の理由は?雨天時こそ訓練をするべきでは。

事務局) 雨が降ったら、参加している自治体の担当者が本当の災害対応体制に入らなければならないからである。

伊東委員) アラームメールの登録者数は、全県ではなく水系のデータとするべきである。登録世帯数で良いのではないか。

事務局) 世帯数では把握できない。現状では登録人数(端末数)である。

立川委員) P41で高取町だけ下水道普及率が低い理由は。

事務局) わかっていない。宿題にさせて欲しい。

三野委員) 近年あり得ない降雨が発生しているが、そのデータを調べて欲しい。今までと変わっていることがわかればと思う。

前迫委員) シートの改善の点で、住民対応について県の対応策も、書ける範囲で示すこと。努力を示すべきである。

中川委員長) 公表できる範囲で。

前迫委員) 県の主観的な表現でなく、客観的に公正な目で記すこと。

中川委員長) ネット地点の写真はあるが、位置が分かるよう地図も掲載されたい。

2. 夏季環境モニタリング調査について (中間報告)

前迫委員) 結果から見ると、大和川は水禽が豊富であるが、布留川北流は質的にも良くない結果である。質的なコメントを記載されたい。見せ方の工夫が必要。例えば生活型でグルーピングをする、飛来目的(繁殖・採餌・ねぐら利用・目的なし等)の情報を追記するなどすると、河川環境の鳥類の利用目的の質的な物差しになる。

岩本委員) P10に採餌対象(魚、水草等)の情報も追記されたい。

中川委員長) 魚道を作るとサギとかが飛来して一網打尽にすることもある。データは大切。

谷委員) 河川課から良く相談されているのだが、学名については専門的すぎないように配慮されたい。属止めのものはその属の分布情報から、ある程度種を特定しても良いと思う。例えばフナ属はギンブナで良いと思う。採餌対象の情報も追記されたい。

谷委員) P21のイシマキガイは汽水域の生物であり、奈良県内には生息していない。環境省や国土交通省の全国調査の仕様で記載しているので仕方がないが、コメントは追記した方が良い。

3. 第68回、第69回委員会議事録について 了承された。

以 上